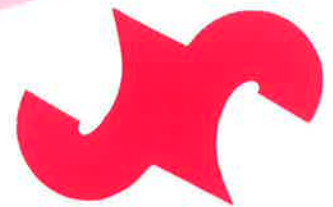


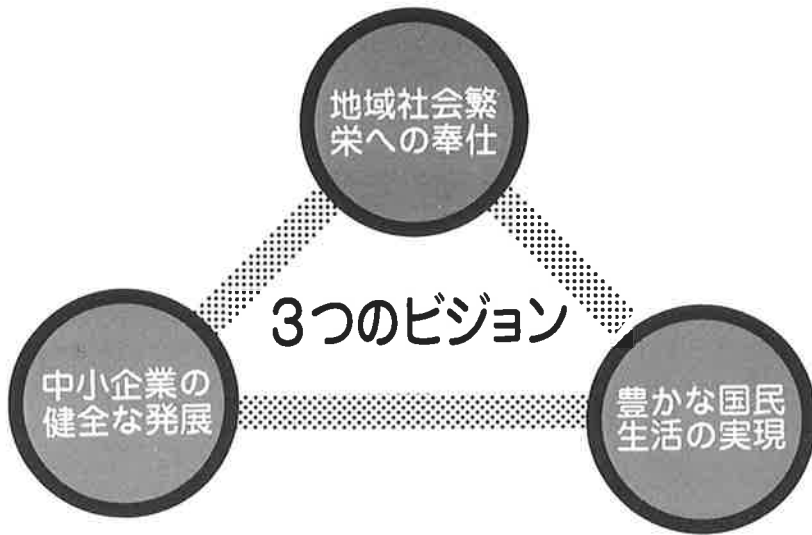
ともしえ

No. 97



■ 函館商工会議所報 ■
1989 5月号

行動する
はつらつたる
商工会議所



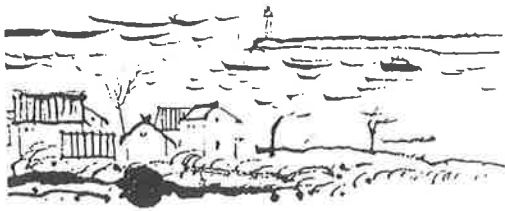
はこしんは豊かな暮らしと
確かな未来の実現に
お手伝いいたします。



本部 函館市豊川町7番19号 TEL22-1241代

本店	函館市豊川町15番20号	TEL22-1247代	亀田支店	函館市亀田本町56番4号	TEL42-3820代
松風町支店	函館市松風町11番15号	TEL23-6221代	中道支店	函館市中道1丁目24番12号	TEL51-1711代
ばんだい支店	函館市宮前町14番15号	TEL41-6236代	上磯支店	上磯郡上磯町飯生2丁目4番24号	TEL73-2151代
五稜郭支店	函館市本町30番24号	TEL52-0511代	えさん支店	亀田郡恵山町字中浜115番の4	TEL84-2111代
弁天支店	函館市弁天町13番11号	TEL26-3646代	七飯支店	亀田郡七飯町字本町392番8	TEL65-2501代
千代台支店	函館市千代台町12番22号	TEL51-5238代	木古内支店	上磯郡木古内町字本町53番1	TEL木古内 2-3121代
湯川支店	函館市湯川町2丁目18番7号	TEL57-1492代	知内支店	上磯郡知内町字重内13番地の11	TEL知内 5-5611代
花園支店	函館市日吉町1丁目27番3号	TEL53-5521代			

視点	1
会議所の動き	2
地域の景気	6
調査レポート	8
アドバイスコナー	12
寄稿文	14
Q & A	16
情報コーナー	18
ティータイム	21
ご案内	22

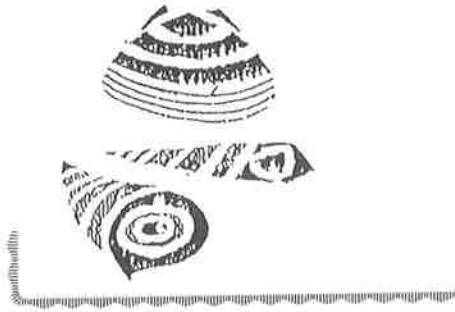


● 視点

風薫る五月を迎えました。暖冬のこともあり、桜の開花宣言が先月二十三日に出されましたが、これは観測史上最も早いとのこと。お陰で連休の好天とあわせ桜の名所は、例年以上の観光客や市民で賑わいました。連休最後の七日には桜吹雪も見られましたが、目にしみるような緑も拵がりつつあり、本当に快適な良い季節の到来となりました。天皇誕生日の四月二十九日は、今年から国土の緑化に大変ご貢献された昭和天皇を記念して、新しい祝日「みどりの日」ときまりました。

私達が生活している環境の中では、みどり、特に樹木の占めている地位には重要なものがあります。例えば現在空気中にある酸素は、植物が数十億年もかけて貯めこんだものであり、今世界で消費される酸素の三分の一は、アマゾンの熱帯雨林地域で再生産されているという説もあります。また、地球規模で進行している砂漠化の一番の根源は、開発途上地域での一千ヘクタールに及ぶ森林の喪失にあるともいわれています。一方、最近の異常気象の原因としてあげられている大気中の炭酸ガスの急激な増加は、化石燃料である石油・石炭の大量消費によるものであることは、論をまたないところです。この炭酸ガスの減少に大きな役目を果たしているのが、葉緑素をもった植物群です。このように、私達の生活に潤いを与え、炭酸ガスを減少させ、地球の温暖化や砂漠化を防いでくれるみどり、即ち樹木については、大切に育てふやしていきましょう。

会 議 所 の 動 き



当 地 域 の 主 要 提 案 を る 項 目 要 望 道 南 商 工 会 議 所 連 絡 協 議 会

来る六月十三日に苫小牧市で開催される第三十九回全道商工会議所大会へ向けて、地域の主要提案事項を協議するための道南商工会議所連絡協議会（浦河、苫小牧、室蘭、登別、伊達、森、函館の七商工会議所で組織）が、去る四月二十五日当市において、各商工会議所から専務理事や事務局長が集まり開催されました。

本所からは、昨年提案の五項目

について引き続き本年も提出しましたが、その内容は次のとおりです。

◎北海道新幹線の建設促進について

道民生活の向上はもとより、本道の産業経済発展に大きな役割を果たすことが予測できる北海道新幹線（青森～札幌）の早期実現とそのための東北新幹線盛岡・青森間の早期完成を図ること。そして東北新幹線が青森まで延長されるときには、函館までの同時乗入れが実現されることを要望しています。

◎北海道縦貫自動車道等の建設促進について

地域の発展のためには高速交通体系の整備が不可欠であり、青函トンネルの有効活用の点からも、整備計画区間となっている函館（七飯）～長万部間の早期着工及び函館側からの工事着手と、遅れている高規格道路函館・江差間についての早急な調査と着工を要望し

ています。

◎函館空港の整備促進について
函館空港の滑走路三千メートル延長工事の早期着工並びに国際化に対応できる諸施設等の整備や運用時間の延長などを要望しています。

◎観光振興対策の推進について
自然環境と文化遺産に恵まれている函館・大沼周辺地域を、新たに総合保養地域整備法に基づき対象地域として指定するよう要望しています。

◎国立函館大学の設置について
地域の将来を背負って立つ人材の育成のためにも国立函館大学は必要であり、そのため北海道教育大学函館分校を母体とする国立函館大学の早期設置を要望しています。

◎青函インターブロック交流圏計画の推進について
第四次全国総合開発計画に示されている青函インターブロック交流圏構想を推進するため、交通・通信ネットワークの整備など五項目のほか、財政面等についての積極的な支援を要望しています。

◎北海道東北開発公庫の機能の拡
充強化について

北海道は全国土の二十二％を占
め、大きな開発の可能性が期待で

ツインシティ提携の交流事業を具体化へ ツインシティ推進協等を開催!

青森と函館両市の行政・経済・
文化などの各界の代表者で構成す
る三つの協議会(1)青函圏経済文
化振興協議会、(2)青森・函館ツイ
ンシティ推進協議会、(3)青函イン
ターブロック交流圏構想推進協議
会)は、去る四月二十七日、青森
市内のホテルに於いてそれぞれ開
催されました。

まず、青函圏経済文化振興協議
会第十三回総会では、木戸浦函館
市長が座長となり会議が進められ、
事務局より前回の総会以降の事業
について報告があり、次に、本協
議会の解散についての協議が行わ
れ、その結果昭和四十三年一月発
足以来二十三年余に亘る同協議会
の活動に終止符を打ち、同日設立
予定の青森・函館ツインシティ推
進協議会にこれを引き継ぐことと

きる地域であることから、民間の
活用を図り、経済の自立化を進め
るために、同公庫の機能の拡充強
化を要望しています。

して、発展的解散をすることに決
定いたしました。

次いで開催の青森・函館ツイ
ンシティ推進協議会では、三月十三
日のツインシティ提携と青函圏経
済文化振興協議会の解散を受けて、
新たに文化・スポーツ・観光・経
済等の幅広い分野に亘る交流事業
の積極的な推進により、青函両地
域の活性化と、青函両地域の一体
的な発展を図ることを目的として、
設立することを決定しました。

会議では、まず木戸浦函館市長
と千葉青森市長職務代理者の挨拶
の後、出席者の紹介に続いて、事
務局よりここに至るまでの経過や
交流事業の実績、青函両市の概況
などについての報告がなされまし
た。

ついで青森・函館ツインシティ
推進協議会規約案が原案通り承認
され、初代会長には木戸浦函館市
長が指名されるとともに、部会
の構成や交流事業計画に対する基本
的な考え方、当面のスケジュール
等についても原案通り承認され、
新たな第一歩を踏み出しました。

また、別に開催された青函イン
ターブロック交流圏構想推進協議
会第四回幹事会においては、人事
異動による新任者の紹介の後、案
件の協議に入り、まず最初に、事
務局より第三回専門部会の状況に
ついて報告があり、次に「ロマン
と活力のある青函圏の形成をめざ
して」を副題とする計画素案につ
いて協議が進められました。その
結果、本日の協議に基づき一部を
変更の上、五月中旬開催予定の専
門部会に計画案として提出するこ
とに決定しました。

また、計画素案の主題について
は、事務局より各界の幅広い意見
や考え方をもとに取りまとめた五
案を中心に、意見を交換しました。
さらに協議会の規約については、
組織・役員・事務局の各関係規定

を整備し推進委員については、広
大な北海道の事情を考慮して、地
元実務者を中心に構成するという
考え方で改正するものであるとの
説明がなされ総会に提出すること
に決定しました。

次に平成元年度の事業計画につ
いては、事業実施初年度として、
関係省庁への陳情とともに、計画
を広くPRするためのパンフレッ
トの作成やシンボルマークの公募
等を実施する予定である旨の説明
があり、収支予算共総会に提出す
ることに決定しました。

今後のスケジュールとしては、
五月中旬開催の最後の専門部会に
計画原案として提出し、そこで出
された意見をもとに原案を修正し
五月下旬開催の同協議会総会にお
いて決定する予定となっております。



本所会費納入のお願い

商工会議所は、地域唯一の経済団体として、商工業の改善発達に果たしている役割には非常に大きいものがあります。また、この会議所を支えているのが地域の商工業者で、本所会員の皆様方です。

函館の景気は、お陰をもちまして好調を維持しており、昨年の青函トンネル開通の波及効果がなお続いている状況にあります。今後も青函インターブロック交流圏構想や青森・函館ツインシティ交流事業計画の推進などを通じて、さらに活性化が進むものと思われます。このような情勢を背景に当商工会議所も、諸事業、諸計画に積極的に参加し、民間の力を結集して地域の発展に寄与しなければならない使命を背負っていることは、ご理解戴けると思います。

本商工会議所と致しましても、今後これらに積極的に対処し、推進していくためには、まず財政基盤を確立させることが必要であると考えます。事務局では職員の削減や事務費の節減に常日頃より努力を重ねてきていますが、経費の節減のみでは、今後増大する諸活動に対応することはできず、やはり収入の拡大をはからなければなりません。

このような観点から、本年度の会費については口数の増をお願いするとともに、納入方についてはできるだけ早目に手続きされるよう、よろしくお願い申し上げます。

会員の皆様へ

函館商工名鑑作成のためのご協力お願い

当商工会議所では、地域の商工業者を道内外へPRするとともに、商取引の便覧として幅広くご活用いただいております「函館商工名鑑」の'89年度版を本年11月を目途に発刊すべく、現在、諸準備を進めております。

この度発刊します名鑑では、本所会員並びに特定商工業者はもちろんのこと、新たに亀田・銭亀沢両商工会のご協力も得て、より充実した内容の名鑑にしたいと思っております。

つきましては、この名鑑のもつ重要な役割をご認識いただきまして、のちほどお送りいたします「函館商工名鑑調査票」へのご記入や、広告のご掲載などについても、会員皆様の特段のご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

事務局日誌 4月

*部会

21(金) 工業・農水産合同議員部会

*委員会

5(木) 青函圏特別委員会

*正副会頭会議

10(月) 第15回正副会頭会議

28(金) 第16回正副会頭会議

*会議(日商)

18(火) 日本・東京商工会議所政策委員会合同会議

20(木) 第372回常議員会

◇ 第107回議員総会

*ブロック会議

25(火) 道南商工会議所連絡協議会

*審査会

12(木) 小企業等経営改善資金の審査会

26(木) ◇

*諸会議

3(月) 函館市亀田商工会との懇談会

◇ 所報「ともえ」No.96 (4月号)編集会議

4(火) 第3回函館市都市内駐車場整備計画調査協議会

5(木) 年金共済事務連絡会議

6(木) 婦人会役員会

7(金) 第3回青函インターブロック交流圏構想推進協議会専門部会

◇ 箱館五稜郭祭募金委員会

10(月) 自衛隊協力会準備人会

◇ ジョージヤ州立大学函館キャンパスについての関係者打合せ会議

◇ ヨーロッパ(ブリュッセル)チャーター便就航に関する日航・JTB関係者との打合せ会議

11(火) ヨーロッパ(ブリュッセル)チャーター便就航に関する日航・JTB・青森商工会議所関係者との打合せ会議

◇ 消費税導入円滑化貸付資金の導入に伴う国民金融公庫との研修会

14(金) みなみ北海道地区観光土産品公正取引協議会役員会

◇ 函館市社会福祉懇話会

17(月) 昭和63年度経営改善普及事業補助金等に係る実績報告書の審査会

20(木) みなみ北海道地区観光土産品公正取引協議会総会

◇ 函館市社会福祉懇話会

21(金) 函館市中国経済促進協議会総会

◇ 国立函館大学誘致促進期成会「第4回高等教育機関の整備に関する調査委員会」

◇ 函館空港整備促進連絡協議会総会

24(月) 箱館五稜郭祭募金委員会

25(火) 北海道電力(株)「第17回函館地域電力懇談会」

◇ 函館経営者協会平成元年度第1回幹事会

26(木) 自衛隊退職者雇用協議会函館支部定期総会

◇ 新幹線現函館駅乗入れ促進期成会幹事会

27(木) (仮称)青森・函館ツインシティ推進協議会

◇ 第4回青函インターブロック交流圏構想推進協議会幹事会

◇ 函館都心商店街振興組合第4回近代化推進委員会

28(金) 函館情報技術開発センター取締役会

◇ 国立函館大学誘致促進期成会「第5回高等教育機関の整備に関する調査委員会」

◇ 所報「ともえ」No.97 (5月号)編集会議

*講習・催物

12(木) 経営相談

13(木) すし店同業組合セミナー

19(木) 平成元年度汚染負荷量賦課金納付申告説明会

◇ 發明相談

22(土)~27(木) 「加賀能登の物産展」

27(木) (社)北海道商工指導センター「第1回パソコン通信実演会」

28(金) 法律相談

*刊行物

20(木) 所報「ともえ」No.96 (4月号)発行

*相談・診断

金融	129	税務	61	経理	19	経営	36
労働	145	取引	0	その他	1	計	391

*貸室

本館 29 別館 5

*文書

受信 273 発信 14

*慶弔・その他

4(火) 須藤隆仙氏「高田屋嘉兵衛」出版記念祝賀会

6(木) 工藤万砂美代議士函館後援会事務所開き

12(木) 函館ソフトウェア専門学院入学式

◇ サンタクロス村候補地視察のフィンランド調査団歓迎レセプション

14(金) 四共済生命保険会社関係支社長と総務委員会正副委員長との懇談会

15(土) 朝日刊政経情報社創立30周年記念祝賀会

17(月) 工藤青森市長市葬

◇ 本所議員会「東京近郊・横浜ウォーターフロント視察旅行」

18(火) 北海道新聞社北川日出治社長就任披露パーティ

19(火) 檜崎前北東公庫副総裁表敬訪問

20(木) 第33回函館圏優良土産品推奨会入賞商品表彰式・懇親会

23(日) 第43回国民珠算競技会道南地区予選

24(月) 北海道電力(株)社長との懇談会

26(木) 朝日ホテルオークランド満15周年並びに新設会社(株)北海道キャリウエイ披露パーティ

28(金) はこだて財界創刊20周年記念特別講演会並びに感謝の夕べ

65年の伝統と信用を誇る

早川特許事務所

特許、実用新案、意匠、商標、権利侵害

所長 弁理士 早川 政 名

〒112 東京都文京区白山5-14-7 早川ビル 電話 (03) 946-0531 <代表>

發明相談 6月21日 水曜日午後1時から午後5時まで、函館商工会議所で相談をお受けいたします。相談は予約制になっていますので、商工会議所相談課(23-1181・内線63番)にお申し込み下さい。

け等が好調なことから、消費税導入による振れを伴いつつも高目の操業を維持。また、漁網でも定置網の更新需要が好調なうえ、イカ刺網を中心とした仮需や大口スポット受注（底引網）も加わり、高水準の出荷、生産を記録。化学肥料でもユーザー筋の前倒し需要に伴う在庫縮小から、目下のところフル生産を継続中。

(4)建設関連

新設住宅着工戸数は暖冬を映じた一戸建て住宅の早目着工や分譲・賃貸マンションの着工集中から前年を大幅に上回った（3月中の市内新設住宅着工戸数前年比2.9倍）。こうした状況下、建設筋では高水準の持ち残受注残を抱え繁忙感が高まってきており、鋼材等建設資材の荷動きも好天を映じた工事進捗から堅調に推移。

(5)漁業

噴火湾ホタテ漁は、4月央でほぼ終漁したが、水揚金額は貝毒発生によるボイル向け出荷制限が響き前年を大幅に下回った。一方、近海マス漁は、ここへきて魚群の来遊から不漁の前年を大幅に上回る水揚げを記録している模様。

(6)消費関連

3月中の市内大型小売店（10か店）の売り上げは、消費税導入前の駆け込みを主因に、衣料品、身回り品、雑貨等押しならべて好売れ行きをみたため、全体では前年比15.2%増と著伸。一方、耐久消費財では、家電販売が物品税廃止前の買控えもあって伸び悩んだが、自動車販売は商用车、軽自

動車の好伸によりますますの伸びを確保（3月中の管内新車販売台数前年比+4.9%）。4月入り後の状況を見ると、百貨店は前月の駆け込みの反動が懸念されたが、中旬以降客足は徐々に回復をみている模様。また、家電販売は大型カラーテレビ等値嵩商品を中心に月初から順調な売れ足をみているほか、自動車販売も買控えられていた乗用車の好売れ行きに支えられ、ほぼ前年並みで推移している模様。

この間、観光・レジャー面をみると、観光客の入込みは青函トンネルフィーバーのあった前年をさすがに下回っているものの、ゴールデンウィーク期間中の市内宿泊施設、航空便の予約は既に満杯の盛況振り。

3.金融事情（3月中）

○実質預金は、法人預金が順調であったものの、公金預金が小幅増に止まり、また個人預金も季節的な消費支出増等を映じて剥落したため、月中161億円増と前年（199億円増）を下回った。一方、貸出は期末決済資金、建設筋の着業資金等を中心に、前年（216億円増）を上回る月中332億円増加。この間、管内銀行の貸出約定平均金利は、低利な季節資金の増加等を映じて、月中 $\Delta 0.032\%$ と前月（ $\Delta 0.028\%$ ）に引き続き低下。

○鉄行券は、前月増発分（2月中発行超44億円、前年15億円）の順調な還流を主因に、前年（発行超27億円）とは様変りの小幅還収超（0.5億円）となった。

○財政収支は、租税、保険の受入が増加した一方、郵便局の支払が小幅に止まったため、前年（受超23億円）を上回る月中48億円の受超。

3月

地域の

景気

—— 日本銀行函館支店 ——

1. 概況

- 最近の管内経済動向をみると、設備投資、個人消費を中心とする内需の堅調を背景に、企業の売り上げ、生産が消費税導入の影響などによる振れを伴いつつも順調な伸びを示しており、管内景気は総じて好調裡に推移しているように窺われる。
- すなわち、製造業では、電子部品、乳製品等が旺盛な国内需要を背景に増産を図っているほか、消費税導入を前にした駆け込み需要から3月末にかけ生産、出荷の急増をみた水産加工、肥料、段ボール等でも引き続き高操業を維持している。また、合板機械、飼料等では 替円安等を映じて輸出が持ち直しを示しており、造船でも受注環境の好転から操業度を漸次引き上げている。一方、非製造業では、建設関連筋が暖冬を映じた工事の早目着工もあって繁忙感を一段と増してきているほか、百貨店売り上げ、自動車販売も消費税導入の影響から大きく振れてはいるが総じて好調裡に推移しており、シーズンインの観光・レジャーも好調な出足を見せている。
- 3月中の金融動向をみると、預金は個人預金の落ち込みを主因に前年を下回る増加に止まったが、貸出は企業の期末決済資金や

建設筋の着業資金等の盛り上がりから前年を上回る増加となった。この間、管内銀行の貸出約定平均金利は低利の季節資金の増加から前月に引き続き小幅低下。

2. 主要業種別動向

(1) 機 械

電子部品では、小型OA機器向け需要が好調なうえ、高性能家電製品向け受注も漸増傾向にあたるためフル操業を続ける一方、外注を増やして一段の増産を図っている。また、合板機械では、既往受注消化のため高操業を維持、新規受注も輸出を中心にこもと好転。造船でも修繕船の好調持続や新造船の受注に恵まれて操業度を漸次引き上げている。

(2) 食 料 品

乳製品では、原料乳の手当が順便なうえ、練乳・粉乳の需給も依然引締まっているため、パート採用等により一段の増産を図っている。また、飼料・魚油では、魚油が安値外国産の出回りから引き続き不芳ながら、主力飼料の荷動きは3月一杯駆け込み需要もあって活発化、4月入り後も台湾向け輸出等の増加などにより反動減をカバーしている模様。一方、水産加工では、消費税導入を前に行楽需要等に備えた問屋筋の動きが目立ち荷動きが活発化したが、4月入り後の買注文はさすがに小口化をみている模様。

(3) その他造製業

合板では、家具・家電向け需要が堅調なうえ、市況も安値インドネシア製品の流入減等により持直し気味にあり、フル生産を続行。段ボールでも、加工食品・青果物向

んでいる。

細業種でみると、飲食品業と漁網業が減額基調を予想しているが、他の業種は横ばい又は増額を見込んでおり、特に水産加工業、金属・一般機械器具業では、今期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示している。

【卸売業】

今期比D I 14.9、前年同期比D I 22.3といずれもD Iがプラスを示し、業績好転を見込んでいる。

細業種でみると、燃料業で引き続き減額を予想している以外は、総じて各業種とも増額を見込んでおり、特に織物・衣服・身の回り品業、一般機械器具業、建築材料業では今期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示している。

【小売業】

今期比D I 13.4、前年同期比D I 9.6といずれもD Iがプラスを示し、業績好転を見込んでいる。

細業種でみると、衣服・身の回り品販売業と各種商品販売業は横ばい状態を予想しているが、食料品販売業、自動車販売業ではD Iが若干プラスを示し、小幅ながら増額を見込

んでいる。

【サービス業】

今期比ではD I 0.0と横ばい、前年同期比ではD I △4.5と若干マイナスを示し、業績はやや悪化が予想される。

細業種でみると、ホテル・旅館業では好調に推移した前年度の反動もあり、今期比、前年同期比ともにD Iがマイナスを示し減額を予想しているが、逆にクリーニング・理美容業ではともにD Iがプラスを示し、引き続き増額を見込んでいる。

3. 資金繰りについて

来期の資金繰りについては、全業種で今期に比べ「好転」とする企業7.2%に対し、「悪化」とする企業8.7%でD Iは△1.5を示しているが、「変らない」とする企業が84.1%もあり、ほぼ今期並みに推移される見通しとなっている。

これを業種別にみると、建設業D I △7.1、製造業D I 0.0、卸売業D I △8.7、小売業D I 6.0、サービス業D I 0.0を示しているが、各業種とも7割以上の企業が「変らない」としている。

統計資料

第一種函館市内大規模小売店舗売上高 (10店) 平成1年3月

品名	売上高(千円)	対前月比(%)	対前年同月比(%)
衣料品	4,382,799	190.5	125.5
身回品	785,475	196.8	122.8
雑貨	961,778	149.8	113.3
家庭用品	934,729	162.0	110.6
食料品	1,839,518	124.3	103.0
食堂・喫茶	225,014	151.5	106.0
サービス	122,793	163.1	108.0
その他	493,251	147.2	94.5
総計	9,745,357	163.6	115.2

*10店とは樺二森屋、丸井今井、さいか、和光、ハイショップホリタ、テーオー小笠原、長崎屋、イトーヨーカ堂、函館西武、ホリタショップパズプラザ湯の川店の各店をいう。

ば前期並みに推移した。

細業種でみても、すべての業種で7割以上の企業が「変わらない」としている。

5. 経営上の問題点

今期最も苦慮している経営上の問題点としては、やはり「売上げ・受注の不振」をあげる企業が多く、全業種で18.4%を占めている。

次に問題点を業種別にみると、建設業では「受注の不振」25.0%、「工事価格の値下り」21.4%、「求人難」・「純利益の減少」がそれぞれ14.3%。

製造業では「売上げ・受注の不振」・「求人難」がそれぞれ20.8%、「製品安」15.0%、「人件費等経費の増加」13.2%。

卸売業では「流通経費の増加」22.4%、「売上げ・受注の不振」20.4%、「販売価格の値下り」・「純利益の減少」がそれぞれ10.2%。

小売業では「売上げの不振」18.0%、「求人難・人材難」12.0%、「客足の減少」・「仕入商品の値上り」・「人件費の増加」がそれぞれ10.0%。

サービス業では「同業者の競合」が57.1%と過半数を占め、次いで「求人難・人材難」19.0%。

来期（4月～6月）の見通し

1. 業況について

函館地域企業の来期業況見通しを全業種でみると、今期に比べ「好転」とみる企業29.1%に対し、「横ばい」企業60.2%、「悪化」とみる企業10.7%でD Iは18.4とプラス、また前年同期比でも「好転」とみる企業25.1%に対し、「悪化」とみる企業が13.8%でD Iは11.3とプラスを示している。

業種別にみると、今期比では建設業D I△3.4、製造業D I 29.6、卸売業D I 20.4、小売業D I 25.0、サービス業D I 0.0と、建設業だけD Iが若干マイナスを示している。

また、前年同期比でみると、建設業とサー

ビス業以外は、D Iがプラスを示し、好転基調が予想される。

このように来期業況見通しは、建設、観光関係以外は明るい見方をする企業が多く、総じて好転基調が見込まれる。

図-5 来期の業況見通し（対前年同期比）

	(D.I)	好転	横ばい	悪化
全業種 (11.3)	25.1	61.1	13.8	
建設業 (-14.8)	14.8	55.6	29.6	
製造業 (18.5)	25.9	66.7	7.4	
卸売業 (20.4)	30.6	59.2	10.2	
小売業 (17.6)	29.4	58.8	11.8	
サービス業 (-9.1)	13.0	63.7	22.7	

2. 売上額について

来期の売上げ見通しを全業種でみると、今期に比べ「増加」とみる企業29.6%に対し、「横ばい」企業54.8%、「減少」とみる企業15.6%でD Iは14.0とプラスを示しており、前年同期比でも「増加」28.6%に対し、「横ばい」企業55.1%、「減少」企業16.3%でD Iは12.3とプラスを示し、業績好転が見込まれる。

図-6 来期の売上げ見通し（対前年同期比）

	(D.I)	増加	横ばい	減少
全業種 (12.3)	28.6	55.1	16.3	
建設業 (-3.7)	18.5	59.3	22.2	
製造業 (22.0)	32.0	58.0	10.0	
卸売業 (22.3)	35.6	51.1	13.3	
小売業 (9.6)	28.8	52.0	19.2	
サービス業 (-4.5)	18.2	59.1	22.7	

次に、来期の売上げ見通しを業種別にみると、

【建設業】

今期比ではD I 7.1とプラスだが、前年同期比ではD I△3.7と若干マイナスを示している。

細業種でみると、設備工事業が減額基調を予想しているが、総合工事業、職別工事業は増額を見込んでいる。

【製造業】

今期比D I 24.0、前年同期比D I 22.0といずれもD Iがプラスを示し、業績好転を見込

同期比D I 14.3といずれもD Iがプラスを示している。

細業種でみても、総じて増額基調で推移している。

このように今期の建設業界は、個人住宅建築、企業の設備投資とも活発で、比較的堅調に推移した。

【製造業】

今期の生産額は、前期比ではD I △26.0とマイナスだが、前年同期比ではD I 25.0とプラスを示している。

細業種でみても、業種間に大きな差はなく、総じて前期比では減額基調だが、前年同期比では増額基調で推移しており、特に水産加工業・飲食料品業・窯業・土石製品業では、回答企業中過半数の企業が「増加」と回答している。

【卸売業】

今期の売上額は、前期比ではD I △2.0と若干マイナス、前年同期比ではD I 34.0とプラスを示している。

細業種でみると、織物・衣服・身の回り品業、医薬品・化粧品業、一般機械器具業では前期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示し業績好転しているが、逆に燃料業ではともにD Iがマイナスを示し、依然として悪化を訴えている。

【小売業】

今期の売上額は、前期比D I 17.6、前年同期比D I 28.6といずれもD Iがプラスを示し、増額基調で推移した。

細業種でみると、食料品販売業でやや業績が悪化している以外は、総じて売り上げを伸ばしており、特に衣服・身の回り品販売業と引き続き好調な自動車販売業では、前期比、前年同期比ともに大半の企業が「増加」と回答している。

【サービス業】

今期の去上額は、前期比ではD I 13.6とプ

ラスだが、前年同期比ではD I 4.6と若干マイナスを示している。

細業種でみると、クリーニング・理美容業は前期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示し増額基調だが、逆にホテル・旅館業では好調だった前年度の反動もあり、ともにD Iがマイナスを示している。

図-3 今期の純利益 (対前年同期比)

(D.I)	増加	横ばい	減少
全業種 (11.9)	30.8	50.3	18.9
建設業 (0.0)	18.5	63.0	18.5
製造業 (26.9)	36.5	53.9	9.6
卸売業 (13.7)	35.3	43.1	21.6
小売業 (10.0)	30.0	50.0	20.0
サービス業 (-9.5)	23.8	42.9	33.3

3. 純利益について

今期の純利益を全業種でみると、前期に比べて「増加」している企業18.0%に対して、「横ばい」企業53.4%、「減少」している企業28.6%でD Iは△10.6とマイナスを示しているが、前年同期比では「増加」企業30.8%が「減少」企業18.9%を上回ってD Iは11.9とプラスを示し、増益基調で推移した。

業種別にみると、建設業の総合工事業、卸売業の医薬品・化粧品業、小売業の自動車販売業、サービス業のクリーニング・理美容業が、前期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示し、増益基調で推移した。

4. 資金繰りについて

今期の資金繰りを全業種でみると、前期に比べ「好転」した企業11.9%に対し、「悪化」した企業7.5%でD Iは4.4を示しているが、「変わらない」とする企業が80.6%を占め、ほ

図-4 今期の資金繰り (対前期比)

(D.I)	好転	横ばい	悪化
全業種 (4.4)	11.9	80.6	7.5
建設業 (3.4)	10.3	82.8	6.9
製造業 (0.0)	7.7	84.6	7.7
卸売業 (2.0)	12.0	78.0	10.0
小売業 (14.6)	18.8	77.0	4.2
サービス業 (0.0)	9.1	81.8	9.1

経済の窓

(昭和63年度第4四半期)

景気動向
調査

昭和63年度第4・四半期(平成元年1月～3月)の函館地域における景気動向調査結果がまとまりましたので概要をお知らせします。

尚、調査対象及び回収状況は次の通りです。

業種別	対象企業数	回収企業数	回収率
全業種	395社	271社	68.6%
建設業	50	35	70.0
製造業	100	69	69.0
卸売業	80	63	78.8
小売業	120	74	61.7
サービス業	45	30	66.7

(注) 本調査結果の中でD Iとある記号は、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目について増加(好転・上昇)企業割合から減少(悪化・低下)企業割合を差し引いた値を示しています。

今期(1月～3月)の実績

1. 業況について

函館地域企業の今期業況を全業種で見ると、前期に比べ「好転」している企業25.6%に対し、「横ばい」企業45.4%、「悪化」している企業29.0%で、D Iは△3.4と若干マイナスを示し、季節的要因もあり、やや悪化気味に推移した。

これを業種別にみると、建設業D I △10.4、製造業D I △16.7、卸売業D I △10.0、小売業D I 19.1、サービス業D I 0.0と、小売業とサービス業以外はすべてD Iがマイナスを示している。

また、今期の業況を前年同期比で見ると、全業種では「好転」企業36.3%に対し、「横ば

い」企業44.8%、「悪化」企業18.9%で、D Iは17.4を示し、好転している。

これを業種別にみると、建設業(D I △7.7)とサービス業(D I △22.7)がやや低調ながら、他の業種はD Iがプラスを示し、好調に推移した。

このように前年同期比で今期の業況をみると、建設関係と前年の反動もみられる観光関係ではやや厳しい見方をする企業が多くなっているが、他は引き続き堅調な個人消費にも支えられて企業活動は前年を上回り、総じて好調に推移した。

図-1 今期の業況(対前年同期比)

	(D.I) 好転 横ばい 悪化		
全業種(17.4)	36.3	44.8	18.9
建設業(-7.7)	15.4	61.5	23.1
製造業(30.2)	45.3	39.6	15.1
卸売業(28.0)	42.0	44.0	14.0
小売業(24.0)	40.0	44.0	16.0
サービス業(-22.7)	18.2	40.9	40.9

2. 売上額について

今期の売上額の状況を全業種で見ると、前期に比べ「増加」している企業30.7%に対し、「横ばい」企業38.6%、「減少」している企業30.7%で、D Iは0.0を示し、横ばい状態で推移した。

図-2 今期の売上額(対前年同期比)

	(D.I) 増加 横ばい 減少		
全業種(23.4)	41.3	40.8	17.9
建設業(14.3)	25.0	64.3	10.7
製造業(25.0)	42.3	40.4	17.3
卸売業(34.0)	46.0	42.0	12.0
小売業(28.6)	49.0	30.6	20.4
サービス業(-4.6)	31.8	31.8	36.4

また、今期の売上額を前年同期比で見ると、全業種では「増加」企業41.3%に対し、「横ばい」企業40.8%、「減少」企業17.9%で、D Iは23.4とプラスを示し、前年度を上回っている。

次に売上額を業種別にみると、

【建設業】

今期の工事完成額は、前期比D I 7.1、前年

繁栄

玩具店

著者 / 岩淵 大明

販売促進につながる イベントあれこれ



育児書づくりで
店づくり

お店が売れているときは、余り周囲のことに目がいかないものです。どの地域から、どのような人が、どのくらいの頻度でというように、情報はよく売っているときにこそよく集まるものです。自店舗のポジショニングをいつもみる目を養いたいものです。

日本の人口の30%以上が首都圏

と呼ばれる東京周辺に集まり、一世帯当たり人口も3人台とますます核家族化が進んでいます。最近ではDINKS族 (Double Income No Kids) なる言葉まで出現しています。30〜40才代の団塊の世代が子育てを終わり、年少人口の割合が減少しています。

玩具店は伸びの良い商いとして、好成績を上げてきました。最近では郊外型の玩具店が、書店と同様に出現して、広い売場とディスプレイ、土・日には多くの家族づれを集めています。

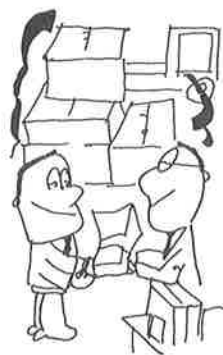
玩具店の経営といえますと、手形決済が基本で小資本でもはじめられました。玩具のライフサイクルが短くなり、流行する頃には商品の入荷は不可能というのが最近の動向になっています。つまり玩具も生鮮食品と同様に、仕入の大小ではなく、現金にて新鮮な商品を仕入れることができるかにかかっています。話題の商品なくし

ては、売り出しは半減してしまいます。

東京は吉祥寺の玩具店では、年少人口が少なくなったとはいえ、絶えず話題商品を仕入ることと並行して、玩具を購入するのは両親であることに着目して、親の身になって販促を展開することにより、専門店としての高い支持を受けています。

核家族化の進展と近所付き合いが疎遠になるに伴い、女性にとって育児は一大事です。玩具が単なるお祝いではなく、乳幼児の心理状態を安定させ、結果として家庭生活を安定へと導くのですが、なかなか口で説明するには、時間を要します。なんとかカウンセリングセールスができないだろうかと考えました。若い主婦は知識欲が旺盛で、何事にもよらず頭で理解しようとしています。

ヨーロッパの育児書の翻訳が目につきました。当店の育児書として小雑誌にとりまとめることがで



Original Cakes

フレッシュな 洋菓子の店

カドツキ

函館市湯川町2-27-35 TEL57-7804

き、宣伝するまでもなく話題を呼び、遠くからもお客様がみえるようになりました。玩具のなかでも教育玩具は子供の知恵を育てるばかりでなく、想い出も残すことのできる玩具となるので、当店で幅広い商圏の特定の客層を狙うことにより、安定した集客を実現しています。

育児書をサービスとして配布しているところに店主の思いやりが現われています。

イベントを打つ前に
品洗いと店洗いを

イベントを打つ場合、大概は仕掛けにこだわりをもってしまい、最初から販促効果を期待してしまふと何もできなくなってしまう。現存何も実施してなければ、お客様には何かがあるのではという期待感があります。何か一つアピールするものがあれば、次につながります。自分のお店は何をお客様に提供しようとしているのか、品洗いと店洗いのためにイベントを行い、お客様の声を感じとるぐらいのスタンスが必要です。

掃を頭にうかべる経営者は少くないでしょう。なぜ在庫になつていのかを考えれば答は簡単です。物余りの時代です。お客様のニーズに合わないものは在庫になりまふ。ある金物店では、一品一品在庫処分として売り出しにかけても売れない消耗雑貨を、バケツに一杯二〇〇円均一というプライスをつけると、飛ぶように売れそのための仕入れの必要にせまられたという話もあります。

お客様にどのように店を見せるのかも重要になつてきています。高いか安いかを考えさせる前に、大小はあるにしてもバケツという尺度が、お客様の価値感を刺激したことは確かです。この場合の当店の営業方針は見切りではなく、当店のお客様への利益の還元にあります。

絶えず品洗い、店洗いをすることは、新鮮な商品の提供につながります。名古屋市にある書店では徹底した顧客管理を行うとともに、話題になつている本はすべて揃えるという方針を採つて、欠品には特に気を使つています。

当店はお客様が本は買いたいが置くスペースがないという声から、不用な本を売りさばいてもらうことにより、新しい本のスペースを

生みだすことを考えました。不用書半値市として年一回店頭で開催しています。この古本市は参加者から二〇〇円の参加料を徴収するだけで、経費は二〇〇円×参加人数(大体25人)の範囲にとどめ、二〇〇冊程度の規模で実施しています。店頭にはイベントを目的としたお客様が殺到し、話題性が新しい顧客を誘引する結果となっています。

まず、できることを、少い経費で、お客様を参加させながら、継続的にイベントを打つことが、当店の魅力となり、お客様とのコミュニケーションを可能にしています。

お客様からみた古本が売りさばけるといふ具体的な手ごたえと、お店側の日商の増加や従業員のやる気の向上といった手ごたえが、次の期待につながっている成功事例です。



楽器は

楽器、AV専門店

楽器、PA、AV、照明レンタル
貸スタジオ/コンサート

(有) サウンドパパ

AM11:00~PM9:00 定休日 火曜

☎55-6096

函館市杉並町20-36
(遺愛高校向い入る)